

【アゼルバイジャン経済トピック 178 号】

在アゼルバイジャン日本国大使館

2024年 2 月 27 日

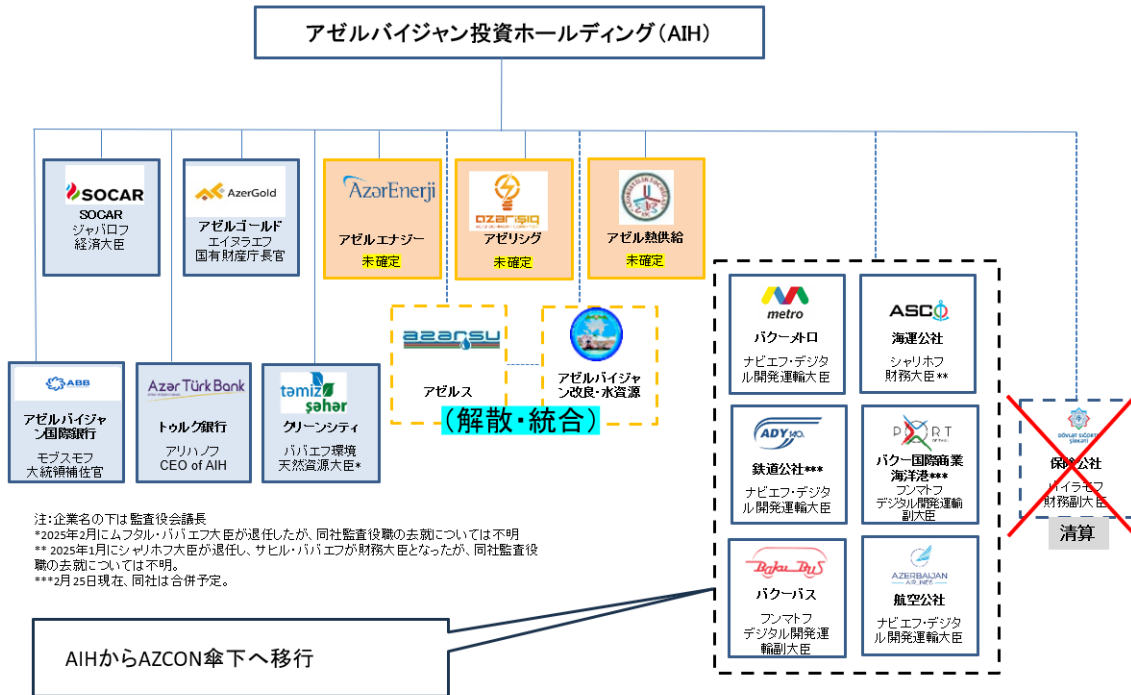
アゼルバイジャン投資ホールディング(AIH)の現状

今回は経済トピック 17 号及び 30 号でも紹介したアゼルバイジャン投資ホールディング(AIH)の現状についてお知らせします。AIH は主要国有企業 21 社(その後 22 社に拡大)をその傘下に入れるという大統領令に基づき2020年に設立され、各社経営トップの上に監査役会(議長は閣僚等)を設置することとなっています。

その後、国営保険会社は2024年1月に清算され消滅、交通運輸や通信に関わる10社は、昨2024年11月に新たに設立された「アゼルバイジャン交通通信ホールディング(AZCON)」の傘下に入ったため(※)、残り10社がAIH傘下に入ることとなりますが、現時点で実際に傘下に入っているのは5社(図1)で、残る5社はAIHに入ることが大統領令に明記されている企業です(図2)。うちアゼルスとアゼルバイジャン改良・水資源公社は統合・再編が行われ、国家水資源庁となっているため、事実上、今後AIHの傘下に入る可能性があるのは残りの3社と考えられます。

※アゼルバイジャン航空、アゼルバイジャン鉄道、アゼルバイジャン海洋船舶、バクー地下鉄、アゼルコスモス(通信)、バクー国際商業海洋港、アズテレコム(通信)、アズポーチタ(郵便)、AzIn テレコム(通信)、バクー電話(通信)、バクーバス。これらの他に、バクー造船所、バクー・タクシーサービス、ラジオ・テレビ放送及び衛星通信組合がAZCONの傘下となることが大統領令に明記されている。

図1. アゼルバイジャン投資ホールディング傘下の国有企業



(以上)